

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076200452		
法人名	社会福祉法人 全和会		
事業所名	グループホーム わかば	ユニット名	A棟
所在地	福岡県飯塚市太郎丸499-1		
自己評価作成日	平成23年11月4日		

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年12月16日	評価結果確定日	平成24年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

清潔な環境で気持ちよく暮らせるように掃除や備品等の整理整頓に力を入れている。中庭を利用して、季節の花を植えて、目で楽しめるようにしている。夏にはゴーヤを植えて、涼しさと食の両方を満喫している。食べることが一番の楽しみなので、毎日の食事作りやおやつをお彼岸やお正月などの季節を感じられるように、工夫努力している。同法人の他事業所との交流や合同行事を開催し、楽しんでもらうようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋建ての中庭を囲む回廊式のホームとなっており、日当たりが良く、中庭に出て日光浴ができる環境となっている。専属の調理担当が配置され、平日はプロによる食事が提供されている。食器や盛り付けにも工夫されており、見た目も彩りよく美味しく、利用者や家族にも好評を得ている。日当たりの良い明るい食堂で食事ができ、利用者の「楽しみ」のひとつとなっている。「楽しみ」の代表では、法人内で作られた「わかば劇団」があり、理事長をはじめ、職員10名から構成された大衆劇団が存在する。福祉祭りや嘉穂劇場で「唐人お吉」などを披露されており、利用者と一緒に観劇し、泣いたり笑ったりと、喜怒哀楽を共に楽しまれている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者と職員が冗談を言い合ったり、明るく、楽しく過ごしてもらえるように努力している	理念に「いつも明るくほがらかに…」と掲げられており、一日一回は笑って楽しく過ごしていただこうとケアに取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組に加入し、地域の清掃活動や祭りの準備等に参加している	地域の清掃活動では、公民館やお宮掃除に利用者と一緒に参加している。近所の方から野菜の育て方を教えてもらったり、漬物をもたらしたりしている。ホーム隣にはタクシー会社があり、協力関係が構築されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の高齢者と同居している方の相談を受けられることがあるが、ホームでの生活状況や対応の仕方を話すこともある		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所の職員や民生委員の方から、アドバイスを受け、良いと思われることは取り入れている	2ヶ月に1回定期的に開催し、民生委員、市職員、家族代表者が参加している。民生委員による地域の情報や客観的な意見をもらい、運営に反映している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスとして提供してよいか判断がつかない時や介護保険制度上のわからないことは相談している	吸引処置やケアについて相談したことがあり、助言をいただいている。ケースワーカーとも利用者について相談し、情報を共有している。今年の4月に地域密着型の協議会が発足予定である。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に理解してもらうため、内部研修を実施しており、玄関の施錠は夜間以外は行っていない	年1回マニュアルの見直しと研修を実施している。現在、身体拘束に該当するような利用者はいない。センサーを利用している利用所もない。言葉による拘束がないよう言葉かけには十分注意している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行なうと共に、管理者は職員の入居者への言葉使いや対応に注意を払い、虐待のないように努めている		

福岡県 グループホーム わかば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の場で説明し、必要があれば話し合いの機会を持つようにしているが、現在には必要としている入居者はいない	現在、制度を活用している利用者はいない。業務との都合がつけば、外部研修に行くことも可能である。	家族や地域に向けて、制度に関する情報提供が行えるよう、職員の学ぶ機会の確保等に継続して取り組み、支援体制を整えていくことが必要です。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所受付時に重要事項、契約書について、責任者より説明し、家族に納得してもらった上でサインを印鑑をもらっている		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族には毎回運営推進会議に出席してもらい、要望や意見を伺っている。家族が面会に来られたときにも利用者と共に要望や意見を言えるよう配慮している。	家族面会時に要望や意見がないか聴取している。ご意見箱の設置やアンケート実施等、意見や要望を表出できる機会がない。運営推進会議の議事録では、地域の方から活発な意見や助言が得られており、有意義な会議となっている。	家族の来訪も限られている。家族が意見を言い難いことを理解し、より積極的な家族意見収集の機会の確保が必要と思われます。
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催し、職員の意見や提案を聞き、運営の参考にしている	毎月、全員参加型の職員会議を行い、職員の意見や要望を聞く機会を設けており、業務の見直しや処遇改善を検討している。ホームで話し合った内容は、月1回の法人施設長が集まる施設長会議で話し合いが行われている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務評価(査定)により評価に応じた手当での支給に努めている		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年齢を問わず、福祉に対する基本姿勢のある人を優先して、採用するようにしている	性別・年齢・資格を問わず、「高齢者どう扱われるか」を重視している。定年は60歳となっているが、定年後も1年更新で働くことは可能である。現在64歳の職員が在籍している。手話ができる職員がおり、手話によるコミュニケーションが利用者とできている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	倫理、法令等の内部研修や職員会議の場で周知徹底を図っている	年1回は人権研修を行い、言葉による虐待についての研修も実施している。近所の方から認知症についての対処の仕方について聞かれることもあり、ホームとして相談を受け助言を行っている。	

福岡県 グループホーム わかば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の意欲や能力に応じて、研修の機会を設けたり、資格を取得するための勤務体制を整えるようにしている		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の同種事業所、異種事業所間の交流を相互に行っている。来年度は地域密着型事業所連絡協議会が設立されるので、他事業所との交流を積極的に行なうようにしていく予定である		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入所之际には慣れていただくために、特に深く関わって、本人の話をよく聞いて安心して過ごせるように努力している		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時介護職員も交えて、管理者や介護支援専門員と共に家族の話をよく聞くようにしている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所を希望して来られた場合でも、話を聞いている段階で、他のサービスが必要と思われるときはそのサービスについてわかりやすく説明している		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたんだり、おしぼりの準備をしてくれる。忙しく働く職員にねぎらいの言葉をかけたりしてくれる		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡をとり、家族にできることをなるべくしていただき、本人と家族との絆が損なわれることのないように努めている		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人がいつでも立ち寄れる施設環境を作っている。面会者が来られたときはゆっくりにできるよう配慮している	自宅に外出したり、教会に行き賛美歌を歌って帰ってきたり、居室で法事が営まれたりと、必要としている関係の支援を、家族と一緒に協力し実施している。	

福岡県 グループホーム わかば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	自立度の低い利用者には元気な利用者が手をさしのべたり、話しかけたりしている姿が見受けられる		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も家族から近況報告、経過報告を受けている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	動ける利用者は散歩がてら、近くのスーパーまで歩いて行き、自分がほしいものを選んで買ったり、近くのうどん屋でうどんを食べて帰ったり、できるだけ希望をかなえる様にしている	センター方式を活用しており、家族の協力をいただきながら情報収集している。「買い物に行きたい」という意向があった時は、なるべく時間をおかず対応できるようにしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にアセスメント、聞き取り調査、入所後も機会あるごとに既往歴や生活パターンやサービス利用について話を伺っている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時に在宅での暮らし方や心身の状況について本人や家族に伺い、現状の把握に努めている		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画作成前に担当者会議を開催、意見を聞いている。職員会議の場でも利用者のケアについての意見を聞き、全員で検討し、より良いサービスが提供できるようにしている	短期目標に合わせて見直しを行っている。モニタリングは3ヶ月に1回としている。今後、GH連絡協議会を通して介護記録の仕方を検討する予定である。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人の介護記録を記入、日勤、夜勤の引継ぎの際にその日の入居者の様子や気づいたことを申し送り、情報を共有し、ケアや計画を見直している		

福岡県 グループホーム わかば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入退院や急変時などに対応する家族のいない利用者には手続きや病院との対応を事業所が代わって行なっている。いろんな書類上の手続きも代行している		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館の廃品回収の協力や町内の掃除、祭りの準備等に参加しながら、町内の方との交流を楽しんでいる		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や定期受診の支援を行い、本人の心身の状況について情報を提供したり、症状について主治医に相談したり、適切な医療が受けられるよう援助している	提携医だけでなく元々のかかりつけ医の受診も支援している。ホームの隣には整形外科があり、リハビリを受けることも可能である。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は常に利用者の状態をチェック、異常があれば看護師に報告、適切な受診や看護が受けられるようにしている		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会に行き、本人の状態の把握に努め、病院関係者にも状態を尋ねている		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、協力医と話し合いの場を持ちながら十分なケアができるように努めている	家族、医師を交えて十分な話し合いを行い、看取りについての意思の確認を行っている。現在、終末期を迎えている方もおり、看取りをおこなう方針である。医療との連携を図っており、在宅酸素や吸引の指導を受けている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成、職員会議や研修の機会を作り応急手当や対応について勉強している		

福岡県 グループホーム わかば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	組織図、連絡網を作り、職員で共有している。近所の方にも協力をお願いしている。年に2回の火災避難訓練を実施している	年2回避難訓練を実施し、隣近所の参加・協力も得られている。昼間の想定に限られており、夜間想定の実施に期待します。	限られた職員数での夜間を想定した避難訓練実施が必要です。職員及び地域を交えた緊急連絡網も作成されていますが、実際にどの程度機能するのか、確認することも重要です。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に関する内部研修を実施、毎日の勤務でも尊敬の念を持って、丁寧な言葉で接するように指導している	「プライバシー保護」や「倫理」についての研修が行われており、「守るべき大事なことは何か」というのを職員間で話し合い、ケアにつなげている。言葉かけが悪いと判断した時は、その場で職員同士で注意しあっている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買いたいものや買う量などをできるだけ本人の意思を尊重し、少しだけアドバイスをし本人に決定させている		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向を最優先しているが、居室に閉じこもりがちな入居者は意に副わなくても、声をかけてホールに出てきてもらうようにしている		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事に合わせて、本人と話し合いながら衣服や靴を選んでいる		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食事を準備している 昔ながらの調理法を入居者に教えてもらったり、一緒に作ったりしている	芋の蔓剥きや調理の下準備を一緒にしている。調理専門の職員による調理がおこなわれており、皿の盛り付け方にも工夫がされている。土日の食事やおやつは一緒に作ることができる。外食に行くこともあり、お酒をたしなむこともできている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録で食事摂取量を確認している。水分摂取量も注意しており、お茶だけでなく、ジュースなどの飲み物も準備して飲ませている		

福岡県 グループホーム わかば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の人は夜間は入れ歯洗浄剤につけて、うがいをしてから休んでもらうようにしている。自分の歯が残っている方には歯磨きの声かけし、磨き残しがないか点検、介助している		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを知る為に排泄記録をつけて、誰でもが把握できるようにしており、注意してトイレ誘導をおこなっている	現在、布パンツにパットの方や、自立している方が多く、トイレでの排泄が維持できるように支援している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者によっては水分摂取を促したり、散歩や運動で身体を動かすように援助している。野菜など繊維の多い食物を摂るように声かけしている		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日に入浴してもらっているが、湯の温度や入浴時間等は入居者の意向に副うようにしている	月水金の午後から入浴日としている。シャワーはいつでも対応できるようになっている。要介護5の方もシャワー浴を実施しており、毎日の清拭と陰部洗浄で清潔を維持できるように支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	枕の高さや居室の温度、湿度を調整、気持ちよく眠れるように配慮している		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の服薬の薬名、効能、副作用、注意事項を把握し、管理している		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室に冷蔵庫を持ち、好きな飲み物や食べ物を買って、保管し食べている。散歩や近くの店での買い物も楽しんでいる		

福岡県 グループホーム わかば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気の良い日には近くのスーパーへ散歩がてら買い物に行く。バスバイクや初詣など少し遠くまででかけることもある</p>	<p>ホームの近隣にはスーパーやドラッグストアがあり、散歩がてら買い物に行くことが可能である。隣の整形外科への通院も、一人で外出し、受診している方もいる。行事として梅や桜、菖蒲などの花を観に出かけたり、バスバイクを実施したりと外出の機会を設けている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理ができる利用者には小遣い程度を所持してもらい、外出や買い物にでかけた際には自分の買いたいものを買ってもらい、支払をさせている</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話の希望があれば、事務所の電話を使用してもらっている。携帯電話で家族に連絡している利用者もいる</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂や玄関ホールは床暖房をしている。中庭には花やゴーヤを植え、目で楽しんだり、夏は日よけで快適に過ごせるようにしている</p>	<p>回廊式のホームであり、中庭にはチューリップが植えられており開花を楽しみとされている。噴水跡には亀が飼育されており、利用者の癒しとなっている。共用空間は日当たりが良く清潔感がある。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者がそれぞれに自分の居場所を確保して、気のあう人と会話を楽しんだり、本を読んだり、音楽を聴いたり、自由に過ごしている</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は一人ひとり使い慣れたものや好みにもものを持ち込み、それぞれの個性に合わせて、過ごしやすいようにしている</p>	<p>ベッドや箆笥、鏡台、テレビ、冷蔵庫、ソファ、お仏壇と各居室、様々な物が持ち込まれており、独自の空間がつけられていた。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下は廻廊式になっており、雨の日の散歩やリハビリのための歩行練習ができるようにしている。ゴミや汚したバットを捨てる場所も安全な所になっており、わかる方には自分で捨ててもらっている</p>		